

令和7年度の重点目標

1 めざす学校像

「安心して安全に生活でき、一人一人が力を発揮できる学校」

重点目標

1 生徒に寄り添った指導

- ・自分を大切にする心、人を思いやる心、感謝する心を育成する。
- ・生徒指導上の問題の早期発見、早期対応に努め、学校として組織的に対応する。
- ・個に応じたキャリア教育を実践し、自立や進路の実現に向けて必要な力を高める。

2 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善

- ・タブレット端末の活用などICT教育を推進し、自ら課題解決に臨む態度を育てる。
- ・言語活動を充実させ、コミュニケーション力と対話を通して判断する力を高める。
- ・考える授業、分かる授業を実践し、基礎学力の向上を定着を図る。

3 地域とつながる教育活動の充実

- ・地域社会との交流や共同学習を通して、社会経験を積みながら学びを深める。
- ・専門家や外部講師と連携し、専門的で生活に役立つ知識・技能の向上を図る。
- ・SNSや報道機関などを利用し、本校の魅力を継続的に発信する。
- ・多様なニーズに応じ、社会に開かれた教育の拡大と発展を図る。

令和7年度の学校評価重点目標及び中間評価

各校務において、年度当初に立てた具体的方策の実施段階にある。授業力や専門性の維持・向上に向けた取組や積極的な情報発信等が進められております。今後、12月に実施予定の保護者アンケートの結果や、2月に行われます学校関係者評価委員会のご意見も踏まえ、教育活動の更なる充実に取り組んでまいります。

部・校務	重点目標	具体的方策	留意事項	中間評価
中学部	・課題解決に向けて生徒が支え合い、話し合う授業づくり	・言語活動や体験活動等を通して、他者と積極的に関わり、学びを深める機会を多く設定する。	・相手に応じた表現方法を選択し、円滑にコミュニケーションがとれるようにする。 ・個々の能力に応じてタブレット端末の活用方法を工夫する。	・各教科、言語活動や体験活動等、他者と関わる中で自身の考えをまとめたり、深めたりする機会を設定して進めることができた。 ・引き続きタブレット端末の活用を含め、さまざまな表現方法を学び、場面や相手に適した選択ができるよう指導を続けていく。

高等部	・思考力や表現力を育てる授業づくり	・社会的自立に向けて、外部関係機関と連携して社会経験を積みながら学んだり、ICT機器を効果的に活用しながら学び合ったりする授業を行い、学力向上を図る。	・生徒が社会とのかかわりや人とかかわりを意識できるような授業や活動を行っていく。 ・個々の進路の実現を目指した指導を意識していく。	・外部機関（大学、企業）とは、今年度も継続して連携しながら実社会に触れて学習活動ができるようにしている。 ・ICTの活用については、多くの職員が授業で使っているのでこの後内容を集約して、改善まで進めていきたい。 ・進路については、多くの生徒が自分にあった進路を考えて選択できている。
総務部	・PTA活動の内容を精選し、保護者の負担を減らす運営方法の模索	・PTA役員を減らす。 ・総会の議事をマチコミメールで周知する。 ・PTAだよりの内容のスリム化する。 ・文化祭模擬店の運営方法を見直す。	・総会の内容の発信、集計、回答の流れを明示する。 ・役員会の意見を反映しながら、新しい取組を実践していく。	・PTA総会を書面にて開催し、滞りなく行うことができた。 ・PTA役員と相談しながら、PTAだよりの内容をスリム化し、発行回数を減らす方向で検討している。 ・文化祭模擬店の運営方法について、負担を減らしながら、運営可能な方法を検討中である。
教務部	・生徒の家庭でのICT機器の活用方法の集約	・家庭学習やプリント学習時の課題においてタブレット端末を活用できる取組を考える。	・さまざまな実践内容やアイデアを集められるように教科・学科に依頼し、協力してもらう。	・教科・学科に依頼し、アイデアを集約中である。夏季休業中の課題における具体的な実践例や理想的な活用方法などさまざまなアイデアが集まることを期待している。
教育情報部	・学校公式 SNS を活用した、本校の魅力を継続的に発信する体制づくりと安定した情報発信	・生徒の活動や行事を週2回以上発信する。 ・各学年・学科の行事担当者に情報提供と記事作成を依頼する。 ・投稿用テンプレートを用意し、投稿の質を安定させる。	・個人情報に配慮し掲載許可を得た生徒のみを対象とする。 ・投稿内容は複数名で確認し、誤発信を防ぐ。 ・外部機関が関わったイベントでは事前に下書きを共有し確認を得る。	・各学科の特色ある活動や学校行事をnoteで発信している。投稿頻度は平均週3～4回である。 ・行事担当者にテンプレートや過去の記事等の提供を行うことで記事の執筆がスムーズにできている。 ・note、Instagram、X、それぞれの特徴を活かした情報発信を行っている。

生徒指導支援部	・生徒及び教職員の安全に対する意識の向上	・地域の消防局、消防署、警察署と連携し、より実践的な訓練の実施、より安全な校内環境の整備に努める。 ・安全に関連する話題を定期的に発信する。	・貴重品の管理について周知する。 ・講話だけではなく、考える活動を設定する。	・生徒集会で安全に関連する講話を行ったり、マチコミを通して安全に関連する資料を定期的に発信したりしている。今年度、校内における貴重品の紛失は減少している。 ・地域の警察署と連携して、より実践的な不審者対応訓練を行い、対応の見直しを随時行っている。 ・交通安全指導、総合防災訓練についても、関係機関と連携して実施する予定である。
進路指導部	・進路情報の伝達方法および進路指導の手引きの活用方法の工夫	・会社・福祉事業所案内について、メールでの周知頻度を増やす。 ・教員・保護者対象の会社見学会を実施する。 ・授業での進路指導の手引きの活用を促す。	・会社・福祉事業所案内については、メールでの周知とともに学校内での掲示も同時に行う。 ・手引きについては、教員間で授業時の活用方法の指南も行うようにする。	・会社・福祉事業所案内について、メールと掲示の両方を活用し、周知をしている。今年度は、学校に届いた求人票について、詳細をメールにて周知を行っている。 ・手引きについて、改訂版を作成し、教育情報部にホームページ掲載を依頼した。 ・8月に、教員・保護者向けの会社見学会を実施した。保護者の参加はなかった。
保健 体育部	・けがをした時や体調が悪く時の相手への正確な状況の伝達 ・災害時などを想定した、自分だけではなく周囲の状況の正確な伝達	・保健室に来室した際の来室記録は、生徒が振り替えられるよう正確に記録するよう伝える。 ・生徒指導支援部と連携し、総合防災訓練時、状況を正確に伝えられるよう訓練をする。	・記入時には、保健便りの言葉も用いたり、体の部位を正確に書いたりするよう支援する。 ・より短い言葉で、正確に伝えられるよう支援する。	・来室記録の記入については、まだまだ正確に記録することが難しい生徒が多いので、引き続き声かけをしながら、正確に書けるよう支援していく。 ・総合防災訓練はまだ実施していないが、実施前には生徒支援支援部と連携し実りのある訓練にしていきたい。
自立 活動 研修部	・個に応じた指導と協同的な学びを目指した自立活動の授業づくり	・校外の専門家を活用し、発音指導の充実を図る。 ・授業で活用できるように、聴覚障害に関する情報提供を充実させる。 ・自立活動の手引きを見や	・発音指導の様子を撮影し、教職員で指導法を共有する。 ・タブレット PC を活用し、聴覚障害に関する情報提供を行う。 ・経験の長い教職員との検討を行いながら、自立活動に	・言語聴覚士に発音指導を依頼し、指導の様子を見学・撮影した。今後、撮影した動画の活用を促していく。 ・目につきやすい場所に情報が提示されるよう、teams の設定を変更した。今後は、わかりやすい情報の提示を心がけて情報発信をしていく。 ・自立活動の手引きの改定箇所を検討し、今後3年間の改定計画を立てた。今年度は、「自立活動とは」の項目

		すい形に改定し、手引きの活用を促す。	おける留意事項を手引きの改定に反映する。	と、重複学級における自立活動のための資料を追加する。
--	--	--------------------	----------------------	----------------------------

いじめ防止に向けた取組

	重点目標	具体的方策	留意事項	中間評価
生徒指導支援部	・いじめの早期発見と認知及び組織的な対応	・生活アンケート及び生徒との面談を実施し、生徒の心情の変化を丁寧に把握する。 ・生徒情報の積極的な共有に努める。	・重大事態に発展する前に迅速に対応する。 ・個人情報の取扱いに留意する。	・生徒情報の積極的な共有に努めることで、重大事態に発展する前に迅速に対応することができている。 ・生徒、保護者対応について、ケース会を適宜実施し、組織として動くようにしている。

多忙化解消に向けた取組

	重点目標	具体的方策	留意事項	中間評価
	・教職員の協働した業務による、仕事の効率化や在校時間の適正化	・主任を中心に各部署での同僚性を高めたり、OJT を推進したりし、学年や校務分掌、教科等で連携や協働をする。 ・校務支援員へ効果的な業務の依頼をする。 ・月の平均施錠時刻や在校時間について、安全衛生委員会や運営委員会で定期的に報告し、現状把握や改善に向けて検討する。	・新任や異動してきた職員や新しい業務に取り組む職員に特に気を配り、声掛け等を意識する。 ・校務支援員の業務依頼がスムーズに行えるようにする。 ・働き方改革ロードマップを意識し、在校時間の適正化を啓発する。	・新任や異動してきた職員に意識的に声を掛けることを運営委員会で校務主任に確認している。今後も折に触れて確認し、同僚性を高めていく。 ・職員の業務内容を確認し校務支援員に依頼可能な内容は、依頼することを推進することで、依頼件数が増加してきた。 ・安全衛生委員会で月の平均施錠時刻や在校時間を報告し現状を把握している。学校医の助言を受けて在校時間が長時間にならない方策を検討中である。